

平成16年度環境監視結果年報の概要

1 結果取りまとめの期間

平成16年4月から平成17年3月まで

2 環境監視の項目

(1) 工事中の環境監視に係る項目

大気質、騒音・振動、悪臭、海水の流れ、水質、底質、汀線、海域生物及び鳥類

(2) 空港の供用に係る環境監視項目

大気質、航空機騒音

3 結果の評価

(1) 評価の主体

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会（委員長：岩田好一郎
中部大学教授）

(2) 評価の考え方

環境監視結果を環境基準値、規制基準値及び過年度調査結果並びに環境影響評価書の予測結果と比較し、工事の実施と中部国際空港の供用による周辺地域への環境影響の程度を把握することにより、評価がなされている。

(3) 評価の内容（総合評価）

環境監視計画に基づき平成16年度に実施された工事中の大気質、騒音・振動、悪臭、海水の流れ、水質、汀線、海域生物、鳥類の環境監視結果及び空港の供用に係る大気質、航空機騒音の環境監視結果に対して、検討委員会の総合評価を以下のとおり受けた。

(1) 工事中の環境監視結果

ア 環境基準値・規制基準値等との比較

大気質、騒音・振動、悪臭及び水質について、環境基準値や規制基準値等と比較した結果、環境監視結果は、次の場合を除いて環境基準に適合するか環境基準値または規制基準値等以下であった。

- ・ 沿道環境大気質の浮遊粒子状物質（SPM）については、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）において1時間値の1日平均値が環境基準値を1回超えていた。
- ・ 水質の項目のうち、濁り（SS）については、水産用水基準を超える場合があったが、全て自然要因によるものであり、工事影響の可能性のある濁りは確認されなかった。
- ・ 水質の項目のうち、化学的酸素要求量（COD）、全窒素（T-N）、

全燐（T-P）については、調査点TS5の化学的酸素要求量（COD）及び調査点TS2、TS3、TS5及びTS6の全燐（T-P）以外は、環境基準値を上回っていたが、愛知県が実施した公共用水域等水質調査結果と比較した結果、ほぼ同様な傾向であった。

イ 過年度データとの比較

全ての項目について、過年度データとの比較（着工後と着工前とのデータ比較）をした結果、環境監視結果は、次の場合を除いて着工前後において、計測値や出現状況にほとんど変化がなかった。

- ・ 沿道環境大気質については、常滑市 ^{しいたるき} 椎垂木（県道碧南半田常滑線）では、二酸化窒素（NO₂）の平均値、日平均値の最高値、一酸化炭素（CO）の1時間値の最高値、日平均値の最高値、浮遊粒子状物質（SPM）の平均値、1時間値の最高値及び日平均値の最高値が一般車両を含む全車両交通量の増加等に伴いやや高く、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）では、二酸化窒素（NO₂）の平均値、1時間値の最高値及び日平均値の最高値が一般車両を含む全車両交通量の増加等に伴い高かった。
- ・ 道路交通騒音については、常滑市千代ヶ丘（市道北条向山線）の昼間においては、一般車両を含む全車両交通量の増加等に伴いやや高かった。

なお、沿道環境大気質及び道路交通騒音については、高い場合があったものの、事業者においては、資機材についてはほとんど海上輸送を行うとともに、作業人員については中継基地を利用した集約輸送を行うことや積極的に電車を利用し、交通量の減少に努めていたことから、工事による影響は少ないものと考えられた。

- ・ 海水の流れについては、空港島南の小鈴谷沖局では表層の流速が若干小さくなっている傾向がうかがえた。
- ・ 底質については、調査点TS4においてシルト・粘土分の割合がやや高かったが、一時的なものと考えられた。
- ・ 汀線位置については、着工前の平成5年から着工後の16年までの長期間では、ほとんどの区間で前進又は後退の様々な変化がみられたが、平成15年から16年の短期間では、大きな変化はみられなかった。
- ・ 海域生物については、自然変動などにより藻場の被度の分布域及び分布面積に変化がみられた。
- ・ 鳥類については、工事の進行に伴い生息環境が変化し、スズガモ、コアジサシ等の出現数に変化がみられた。

ウ 予測結果との比較

沿道環境大気質及び道路交通騒音・振動について、予測結果との比較をした結果、環境監視結果は次の場合を除いて予測結果よりやや低いかほぼ同程度であった。

- ・ 沿道環境大気質は、二酸化窒素（NO₂）の1時間値が常滑市千代ヶ丘において予測結果より高かった時間数が測定時間671時間に対して2時間であり、常滑市椎垂木及び常滑市社^{こそへ}辺において予測結果より低く、一酸化炭素（CO）の1時間値が常滑市椎垂木及び常滑市社^{こそへ}辺において低かった。
- ・ 道路交通騒音は常滑市社^{こそへ}辺の夜間が高く、道路交通振動は常滑市椎垂木、常滑市千代ヶ丘及び常滑市社^{こそへ}辺の3地点とも昼間及び夜間とも低かった。

エ まとめ

平成16年度の環境監視結果では、工事に伴う環境への影響はほとんど認められなかった。

なお、底質、汀線、海域生物及び鳥類については、今後もその変化に注意して監視をしていく必要がある。

(2) 空港の供用に係る環境監視結果

大気質及び航空機騒音について、環境基準値や指針値と比較した結果、環境監視結果は、環境基準値または指針値以下であった。

なお、空港の供用に係る環境監視結果については、短期間の調査結果であることから、今後も監視を継続していく必要がある。

4 環境監視結果年報の公開

環境監視結果年報については、中部国際空港の情報コーナーや知多半島の5市5町等の庁舎において順次公開するとともに、インターネットを通じてその概要を公開する。

<http://www.pref.aichi.jp/kigyo-chosei/>

<http://www.centrair.jp/environment/>

(参考)

空港島及び対岸部の環境監視に関する検討委員会構成員

委員	委員	委員	委員	委員	委員長	区分
吉久光一 よしひさ こういち	小松明 こまつ あきら	工藤盛徳 くどう せいとく	北田敏廣 きただ としひろ	小笠原昭夫 おがさわら あきお	岩田好一郎 いわた こういちろう	氏名
名城大学理工学部建築学科教授	国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部長	東海大学名誉教授	豊橋技術科学大学エコロジ―工学系教授	名古屋学芸大学非常勤講師	中部大学工学部都市建設工学科教授	役職等